

鈴木商店記念館の歩み



鈴木商店創業150年・鈴木商店記念館開設10周年の集い

2024年9月27日



鈴木商店記念館
編集副委員長 金子直三

自己紹介

<https://www.suzukishoten-museum.com/>



- 当記念館は鈴木商店が残した業績の調査を進めるとともに、貴重な資料・情報等の収集に努め、それらを広く公開することを目的として**平成26(2014)年4月1日にインターネット上にオープン**しました。

- オープン以来多くの方にご覧いただき**現在までの当記念館へのアクセス数は延べ157万件余りに達**しています。

※年間アクセス数：平均12～13万件
月間アクセス数：平均1万件

当記念館の各ページの充実にあります (2)

<https://www.suzukishoten-museum.com/>

年表

鈴木商店年表					
年次	月次	年次	月次	主な出来事	
昭和	昭和17	1874	1874	鈴木商店、全支店、支店別支店「日本通」(現徳島「ふゆ会」)を創業 分社経営【鈴木商店の創業】	この年の創業
	昭和18	1877	1877	西宮支店、鈴木商店に神戸 二支店を開設	
	昭和19	1884	1884	鈴木商店創業 東京支店(現 東京支店) (株) 設立(現 東京支店として営業)	
	昭和20	1885	1885	神戸支店(現 神戸支店) 神戸支店(現 神戸支店) 設立	
	昭和21	1886	1886	神戸支店(現 神戸支店) 設立 神戸支店(現 神戸支店) 設立	
	昭和22	1887	1887	神戸支店(現 神戸支店) 設立 神戸支店(現 神戸支店) 設立	
	昭和23	1888	1888	神戸支店(現 神戸支店) 設立 神戸支店(現 神戸支店) 設立	
	昭和24	1889	1889	神戸支店(現 神戸支店) 設立 神戸支店(現 神戸支店) 設立	
	昭和25	1890	1890	神戸支店(現 神戸支店) 設立 神戸支店(現 神戸支店) 設立	
	昭和26	1891	1891	神戸支店(現 神戸支店) 設立 神戸支店(現 神戸支店) 設立	

関連資料



金子直吉遺芳集

金子直吉の人となりや後世に広く伝えるため、辰巳会により出版された。(昭和47(1972)年)俳句、和歌、書翰が収められている。高畑誠一宛てに出された有名な「天下三分の甜菜糖」も含まれている。

● e-BOOKはこちら



鈴木商店調査書

本資料は、情報関係所(後の情報データバンク)が大正6(1917)年12月に三菱(商)調査部に報告した調査書で、鈴木商店の全ての事業を網羅し、調査事項29、分善会社19、主要関係会社14についての報告書。
大正7(1918)年に営業部を独立させ「三菱商事」の設立を予定する三菱合資は、鈴木商店が日本一の総合商社となった大正6(1917)年、急遽経営刷新に調査を依頼したものとと思われる。

● 東京大学経済学図書館所蔵 近世・近代社会経済資料「鈴木商店調査書」



鈴木商報・鈴木商店商報

この調査レポートは、当初「鈴木商店商報」として発行され、後に「鈴木商報」と名を変え出されたが、発行期間、発行部数、配布対象などは不明。砂糖、小麦粉相場を中心に、商況解説・海外通信・紀行文・論文などを含む定期レポート(毎月3回発行)で、鈴木商店の活動を知る貴重な資料である。
現在、第12号(明治43(1910)年1月7日発行)から第21号(同年4月7日発行)の「鈴木商店商報」、第1号(明治43(1910)年4月17日発行)から第246号(大正5(1916)年12月27日発行)までの「鈴木商報」の総数256部が神戸大学社会科学系図書館(電子図書館)に「貴重書」として所蔵されている。図書館ウェブサイトより閲覧可能。

● 神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ「鈴木商店商報」「鈴木商報」



米価問題と鈴木商店

大正7(1918)年、米騒動による持ち打ち事件後、鈴木商店が米価問題における自らの位置を述べ、買止め等の見解の語りを行った。明記はないが、神戸高島倉庫本店総主任(部長職)として主力商品の「米」の取扱い責任者であった永井太郎が著したと思われる。

● 「米価問題と鈴木商店」(原文)
● 「米価問題と鈴木商店」(現代語表記)

写真館



鈴木商店ゆかりの全国各地に取材に赴きました



- [左上] 北海道羽幌町の「辰巳橋」上にて
- [左下] 鳥羽市のミキモト真珠島にて
- [右] 玉野市 日比製煉所の「太郎煙突」

鈴木商店シンポジウムを開催（2015年5月29日）



- 開館1周年を迎え、当記念館の更なる発展を目指して「鈴木商店シンポジウム」を開催しました。
- 基調講演、パネルディスカッション、参加者からの意見聴取、秘蔵写真・映像の公開、懇親会等を実施
- 記念館編集関係者、協賛企業、鈴木商店関係者、大学研究者、自治体関係者、一般参加者、報道関係者等多くの方々に参加いただきました。

羽幌炭砒大同窓会が開催されました（2015年9月27・28日）



- 羽幌炭砒閉山45年を記念し、北海道羽幌町にて「羽幌炭砒大同窓会」が開催され、元炭砒関係者、元住民、炭砒・鉄道愛好家を中心に約220名が参加されました。
- 当記念館の編集委員が基調講演、パネルディスカッションに登壇しました。
- 当記念館は記念誌「悠久の夢をかけた羽幌炭砒」の編集作業に全面的に協力しました。

神戸新聞の連載「遥かな海路 巨大商社・鈴木商店が残したもの」に協力しました（2016年4月～2017年6月）



- 神戸新聞社は神戸開港150年を翌年に控え、2016年4月から翌2017年3月末まで日曜日の朝刊に鈴木商店の波乱に満ちた軌跡を辿る「遥かな海路 巨大商社・鈴木商店が残したもの」を連載されました。
- 当記念館は資料・画像の提供等で同社に協力させていただき、神戸、相生、網干、台湾の同紙取材にも同行させていただきました。
- この連載は、296ページ・オールカラーの単行本にまとめられ、2017年6月に出版されました。

全国各地で開催された鈴木商店関連イベントに参加しました

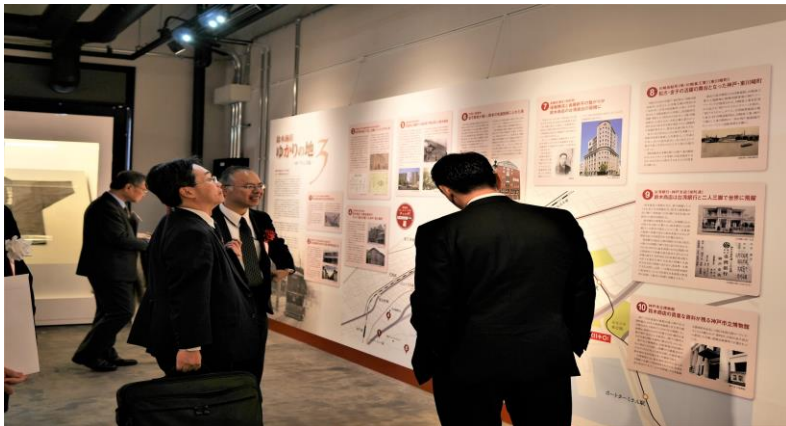
- 2016年7月 「播磨造船所と相生の近代化」 (相生市文化会館)
- 2016年9月 「秦逸三の胸像移設除幕式」 (米沢市「松が岬第2公園」)
- 2016年10月 「生誕150年 金子直吉翁 たたえる祭り」 (高知県「しもなの郷」)
- 2018年9月 「帝人100周年記念イベント」 (米沢市)



「神戸港と神戸文化の企画展」が開催されました (2017年1月～12月)



- 神戸開港150年記念事業「神戸港と神戸文化の企画展」が2017年1月～12月の間、神戸市の「デザイン・クリエイティブセンター神戸」にて開催され、実物の「鈴木商店記念館」が開設されました。
- 「天下三分の宣誓書」「鈴木岩治郎・鈴木よね・金子直吉の胸像」「辰巳屋の暖簾」「鈴木商店の法被」「船鉄交換契約記念時計」「各種パネル」などが展示されました。



「神戸港と神戸文化の企画展」の開催中、記念講演会の開催に協力（2017年2月～11月）

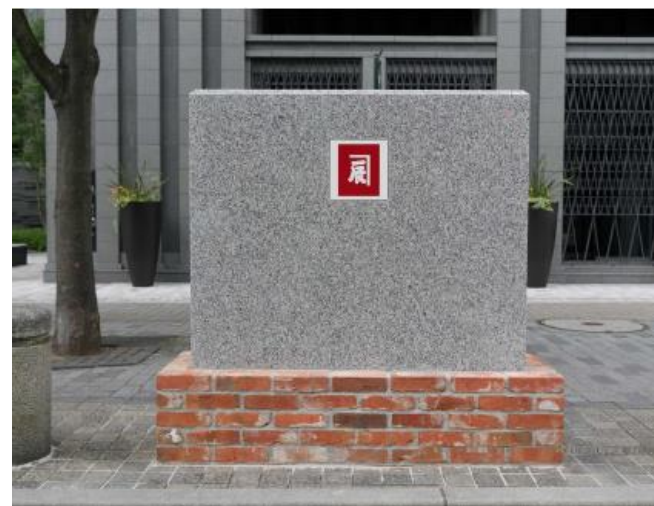


- 神戸開港150年記念事業「神戸港と神戸文化の企画展」（2017年1月～12月）の開催中、神戸市主催による鈴木商店関連の記念講演会が6回開催されました。（当記念館がコーディネート）
- 講師は鈴木商店の研究者、当記念館の協力者・関係者の方々6名



「鈴木商店モニュメント」を建立しました（2017年7月7日）

- 神戸開港150年を記念して鈴木商店本店跡地（神戸市中央区栄町通7丁目）に「鈴木商店モニュメント」を建立し、神戸市に寄贈しました。
- 当記念館の主催により、除幕式・記念式典を開催しました。



鈴木商店本店跡地

— 総合商社の源流にして我が国産業革命の源泉 —

この場所には大正期に日本一の総合商社となった鈴木商店の本店がありました。明治・大正期に活躍した関西建築界の長老・河合浩蔵の設計による「みかどホテル」を後藤勝造（後藤回漕店創業者）より譲り受けたもので、貿易港神戸を象徴する西洋風建築物でした。

一八七四（明治七）年、鈴木岩治郎により神戸弁天浜に洋糖引取商として創業された鈴木商店は、一八九四（明治二七）年、岩治郎没後に女主人となった鈴木よねと、大番頭・金子直吉を中心して次々に製造業を起業し、日本の貿易立国の礎となり、神戸港および神戸の産業発展に貢献しました。

また鈴木よねは、女性の自立と職業進出の必要性を訴え、日本初の公立女子商業学校である神戸市立女子商業学校（現・神戸市立神港楠高等学校）の創設（大正六年）に尽力しました。

一九一八（大正七）年に全国各地で起きた米騒動は、ここ神戸にも飛び火。この地にあった本店社屋を焼失するという悲劇に見舞われましたが、鈴木商店の成長の勢いは衰えず、大正期の我が国経済を牽引し、後に総合商社の源流と言われるほどの実績を残しました。鈴木商店が関与した事業は、現在の神戸製鋼所、帝人、双日、太陽鋳工他数多くの企業に継承されています。

二〇一七年七月吉日



大正5年当時の鈴木商店本店



大番頭・金子直吉 お家さん・鈴木よね

本記念碑は、2017年神戸開港150年を記念して、鈴木商店のOBによって組織された辰巳会・鈴木商店記念館により寄贈されたものです。

「神戸発祥の総合商社の源流・鈴木商店を知る」講演会の開催に協力（2018年6月～2019年3月）

- 「神戸市のウォーターフロントの賑わいづくり事業」として「神戸発祥の総合商社の源流・鈴木商店を知る」講演会が4回開催されました。（当記念館がコーディネート）
- 講師は鈴木商店の研究者、当記念館の協力者の方々4名



「神戸発祥の総合商社の源流・鈴木商店を知る」勉強会の開催に協力（2018年8月～2019年2月）

- 「神戸市のウォーターフロントの賑わいづくり事業」として「神戸発祥の総合商社の源流・鈴木商店を知る」講演会が4回開催されました。（当記念館がコーディネート）
- 講師は当記念館の編集委員3名



「女性研究者から見た鈴木商店」シンポジウムの開催に協力 (2019年9月21日)

- 神戸市主催による「女性研究者から見た鈴木商店」シンポジウムの開催に協力しました。(当記念館がコーディネート)
- シンポジストは当記念館の関係者4名



「栄町通散策ツアー」の開催に協力（2019年11月30日）

- 神戸市主催による、神戸市中央区内の鈴木商店ゆかりの地を訪ねる「栄町通散策ツアー」の開催に協力し、当記念館の編集委員2名が引率・解説を務めました。
- 参加者は抽選で選ばれた20名で、神戸市立博物館、旧居留地の鈴木商店ゆかりの外国商館跡、4つの鈴木商本店跡、「鈴木商店モニュメント」等を巡りました。



舞台「彼の男 十字路に身を置かんとす」が東京と神戸で再演されました（2023年4月）



- 鈴木商店の大番頭・金子直吉およびその社員たちの活躍を描いた舞台「彼の男 十字路に身を置かんとす」がコロナ禍による2020年の再演中止を乗り越えて昨年4月、脚本家・村田裕子氏が主宰する劇団「LiveUpCapsules」により東京と鈴木商店発祥の地である神戸で再演されました。
- この再演は、神戸市と双日を始めとする鈴木商店ゆかりの35企業・団体の多大なご支援（協賛・後援）により公演の運びとなったものです。

- 鈴木商店記念館も「特別後援」として支援してまいりましたが、東京10公演、神戸7公演、計17公演はいずれも満席で、男優ばかり14人によるエネルギーがほとばしり出るような圧倒的熱量の舞台は大好評のうちに終了しました。

神戸市で「鈴木商店ゆかりのまち歩き」が開催されました (2023年3月～5月)



- 神戸市で、舞台「彼の男」の公演時期に合わせて同市主催の「鈴木商店関連事業」が実施されました。
- ・神戸市中央区内のゆかりの地を巡る「鈴木商店ゆかりのまち歩き」開催(記念館が引率)
- ・神戸市立博物館・神戸市立三宮図書館にて「鈴木商店ゆかりの資料・図書の展示」開催



神戸市で「神戸港と鈴木商店を語る会」が開催されました (2023年4月22日・23)



- 昨年 4月22日、23日の両日、「神戸ポートオアシス」において、舞台公演の時期に合わせて実施する 神戸市主催の「鈴木商店関連事業として、「神戸港と鈴木商店を語る会」(基調講演・パネルディスカッション)が開催されました。



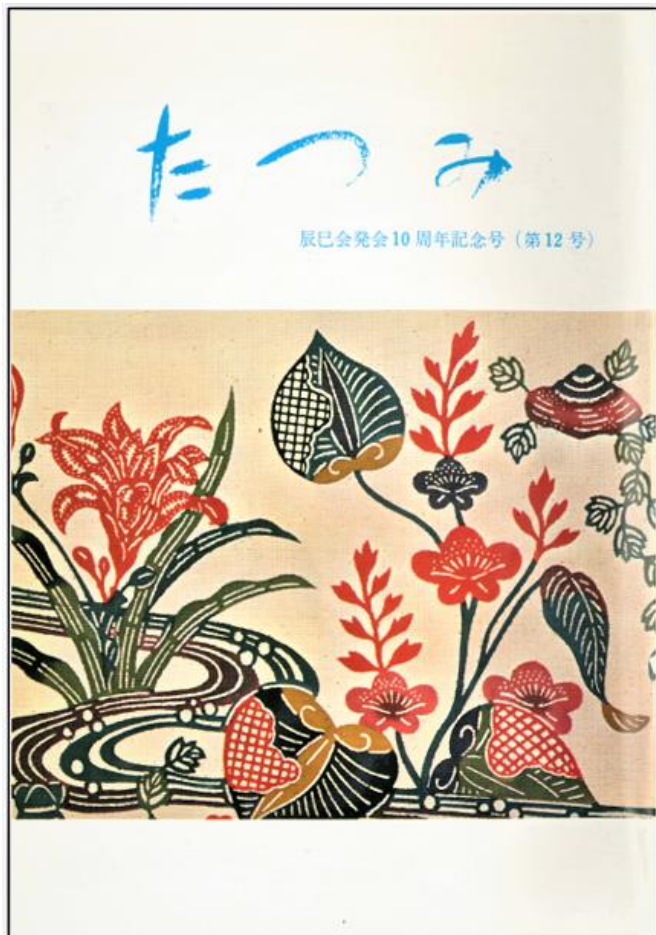
今後も、ウェブサイトの内容の充実と各種情報の発信に努めてまいります

● **公開中のものを含め、32の“シリーズ物”を公開**

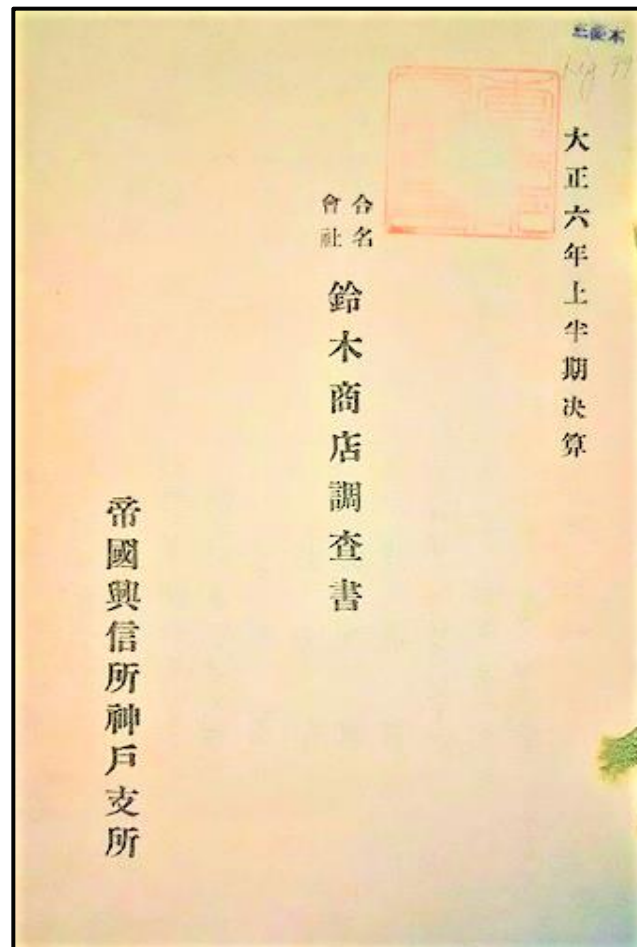
- ・「神戸製鋼所設立の歴史」 7回
- ・「播磨造船所の歴史」 9回
- ・「金子直吉の著書「経済野話」シリーズ」 9回
- ・「神戸新聞の連載『遥かな海路 巨大商社・鈴木商店が残したもの』」 40回
- ・「金子直吉に関する言葉シリーズ」5回
- ・「鈴木商店の生産事業を支えた技術者シリーズ」 14回
- ・「辰巳会・会報『たつみ』シリーズ」 現在65回（公開中）
- ・「鈴木商店こぼれ話シリーズ」 現在53回（公開中）
- ・「帝国興信所が作成した『鈴木商店調査書』シリーズ」 現在6回（公開中）
等々

- 2024年8月末日現在**678件**の“お知らせ”を公開し、各種情報の発信に努めています。（1月当たり 3件～4件の“お知らせ”を発信しています）

- 今後も、貴重な資料・情報の収集を図り、「鈴木商店の歴史」「企業特集」「地域特集」「人物特集」等の内容の充実と各種情報の発信に努めてまいります



辰巳会・会報「たつみ」



鈴木商店調査書

ご清聴 ありがとうございます。

以上で「鈴木商店記念館のあゆみ」の講演を終了とさせていただきます。